

ハンドボール競技実施要項

1. 主催 熊本高等専門学校（八代キャンパス）
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
2. 主管 九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟ハンドボール競技専門部
九州ハンドボール協会、熊本県ハンドボール協会
3. 後援 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、八代市、八代市教育委員会、熊本日日新聞社、RKK、TKU、KKT、KAB、
4. 期 日 令和4年6月30日（木）、7月1日（金）
5. 会 場 熊本県立総合体育館（熊本県熊本市西区上熊本1丁目9-28）
6. チーム人員 役員4名以内、選手16名以内、計20名以内とする。
7. 競技規則 2022年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則による。
8. 競技方法
 - (1) 出場チームをA、Bの2ブロックに分け、1日目にブロック別の予選を行い、2日目に各ブロック上位2チームによる決勝トーナメント及び3位決定戦を行う。
 - (2) 予選において延長戦は行わず、以下の方法で順位を決定する。
 - ① 勝率の高いチームを上位とする。
 - ② ①で決定できない場合は、チーム間の対戦結果、勝チームを上位とする。
 - ③ ②で決定できない場合は、得失点差が大きい方を上位とする。
 - ④ ③で決定できない場合は、総得点の多いチームを上位とする。
 - ⑤ ④で決定できない場合は、総失点の少ないチームを上位とする。
 - ⑥ ⑤で決定できない場合は、抽選により決定する。
 - (3) 決勝トーナメントでの延長戦は、準決勝、決勝ともに5分の休憩後、5分×2の第1延長まで行い、なお決しない時は7mスローコンテストで決定する。
 - (4) 競技時間は、25分－10分－25分とする。
9. 注意事項・その他
 - (1) 使用球は、（公財）日本ハンドボール協会公認検定球（3号球）とする。
 - (2) プレイヤーの背番号は、No. 1～16の内とする。
 - (3) 各チームは、同系色でない濃淡のユニフォームを2着以上用意すること。
 - (4) 選手・役員は（公財）日本ハンドボール協会登録証を持参すること。
 - (5) 松やに（スプレーを含む）の使用は禁止する。ただし、両面テープの使用は可とする。
 - (6) 競技場内に立ち入る者は、必ず室内スポーツ用シューズを使用すること。
 - (7) 選手の負傷については、開催校で応急処置を施すが、その後の処置は当該校で行うこと。健康保険証、及び（独）日本スポーツ振興センター所定の用紙を持参すること。
 - (8) 競技参加者で、情報媒体に個人名・写真・映像の使用を許可しない者は、「参加申込書」または「選手・役員変更届」の公表の欄に記入すること。記載がない場合は掲載される場合がある。なお、競技参加に際して提供される個人情報は大大会活動に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。
 - (9) 選手・役員の抹消、並びに抹消された選手・役員に対する新たな登録は、監督主将会議までに「選手・役員登録変更届」を大会本部へ提出し、監督主将会議で承認されれば認められる。
 - (10) 別紙「第58回（令和3年度）九州沖縄地区高専体育大会ハンドボール競技における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を遵守すること。
また、大会会場の新型コロナウイルス感染拡大防止対策方針に従い、感染拡大防止に最善を尽くすこと。

第59回（令和4年度）九州沖縄地区高専ハンドボール大会における
新型コロナウイルス感染症対策についてのガイドライン

九州沖縄地区高専ハンドボール競技専門部

1 大会の参加規定

(1) 会場への入場を認める者

- ①参加校の部員（マネージャー含む）及び顧問（外部指導者含む）で、証明書を提出し（別紙2）、新型コロナウイルス感染拡大防止のための確認シート（別紙3）に記載された者
- ②参加校の部員の保護者で、新型コロナウイルス感染拡大防止のための確認シート（別紙4）に記載された者
- ③実行委員会から入場を許可された報道関係者及び役員や補助員、審判員及び来賓等で、新型コロナウイルス感染拡大防止のための確認シート（別紙5）に記載された者

※①～③以外の入場は認めない

(2) 大会参加者への対応

- ①大会当日までに発熱が、3、4日続いた日があったり、極度のせき・倦怠感などの症状があったりしたものについては大会参加を見合わせる。
- ②事前の健康観察において発熱や体調不良（発熱・せき・咽頭痛など）の場合は、大会参加を見合わせる。

2 大会参加時の留意事項

- (1) マスクを持参し着用する（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する）。
- (2) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- (3) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する（障害者の誘導や介助を行う場合を除く）。
- (4) 参加者はマイタオルを持参し、トイレや手洗い時等に使用する（トイレの布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しない）。
- (5) 試合中に大きな声で応援しない。また、声援自粛、拍手推奨をお願いします。
- (6) 感染防止のため、主催者が決めた措置を遵守するとともに、大会当日も主催者の指示に従う。
- (7) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無について報告する。

3 試合会場における感染防止対策

- (1) 感染防止のための遵守すべき事項を整理し、適切な場所に掲示する。
- (2) 下記4の事項（各施設及び諸室の感染防止対策）が順守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- (3) 会場入場者にマスクの着用を徹底させる。
- (4) こまめな手洗いを呼びかけ、手洗い場には石鹸（液体が望ましい）を用意し、可能な限りアルコール消毒液を必要箇所に設置する。
- (5) 参加者にマイタオルを準備させ、タオルの供用をしないことを徹底させる。
- (6) 会場内の喚起（窓やドアの常時開放）を徹底する。
- (7) 会場内のゴミ箱の使用を禁止し、ゴミの持ち帰りを徹底させる。
- (8) 喫煙所は設置しない。
- (9) 会場等で急に風邪症状の学生が出た場合は、当該校教職員が保護者及び学校へ連絡し帰宅させる。併せて他の学生等への健康観察を徹底させる。

4 各施設及び諸室の感染防止対策

(1) 手洗い場所及び洗面所（トイレ）

- ①石鹸（ポンプ型が望ましい）を準備する。
- ②「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- ③入り口にアルコール等の手指消毒液を準備する。
- ④手洗い後に手をふくため、参加者に個人専用のタオルの持参を徹底させる。手指を乾燥させる設備については使用を禁止する。

- ⑤手洗い場やトイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する。
- ⑥トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう掲示する。
- (2) 更衣室、休憩・待機スペース
 - ①広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障害者の介助を行う場合を除く）。
 - ②ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
 - ③室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する。
 - ④換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等喚起に配慮する。
- (3) コート、ベンチ、オフィシャル席
 - ①オフィシャル席及び各チームベンチにアルコール等の手指消毒液を準備する。
 - ②チームベンチの間隔はゆとりを持たせ、密になることを避ける。
 - ③オフィシャル席にはゲームの運営に必要な最低限の人数を配置し、試合毎に交代しながら運営に当たる。
 - ④モッパールには、使い捨て手袋を着用させ、選手の汗等に直接触れないように工夫する。
 - ⑤複数の参加者が触れると考えられる場所（ベンチ、ジャッジズテーブル、ゴールポスト、フロア等）については、試合毎に消毒を行う。
- (4) 観戦席・スタンド
 - ①観客として入場できるのは参加校の保護者のみとし、原則として参加校の一般教職員、一般学生及び一般観客は入場不可とする。
 - ②保護者の入場の際には、試合日毎に新型コロナウイルス感染拡大防止のための確認シート（別紙4）を提出する。
 - ③試合会場での混雑を避けるため、試合毎にチーム及び観戦者の入れ替えを行う。各チームは指定された経路を厳守するとともに、試合終了後は座席の消毒に協力いただいた後、速やかに退場し他チームとの接触を避ける。
 - ④各会場に設けられた応援エリアで、応援席の座席の間隔（できるだけ2m以上）を空けた状態で観戦を行う。

5 試合に参加する部員の留意事項

- (1) 審判や選手同士の握手やハイタッチ等は実施しない。
- (2) 試合中に「握手」、「ハイタッチ」、「肩を組む」など、競技以外の身体接触を控える。
- (3) マイボトル及びマイタオルを持参し共有しない。
- (4) 水・氷を溜めたクーラーボックスを共有しない。
- (5) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離について配慮する。
- (6) ベンチではマスクを着用し、会話を控える。
- (7) 更衣室やシャワーを利用する際は、密集を避け、交代で使用する等の工夫をする。
- (8) ミーティングは短時間で行い、密にならないようにする。
- (9) 飲食は指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにする。

6 チーム（部員）の移動及び宿泊について

- (1) 移動について
 - 個人の車による移動を推奨する。試合のため往復の移動にバスを利用する場合は、過密状態にならないように運航計画を工夫し、各移動の前後にはバスの清掃及び消毒を徹底する。
- (2) 宿泊について
 - 宿泊を伴う移動をできるだけ避ける。必要な場合は、以下の点に注意して手配する。
 - ①大会主催者はチーム連絡先と宿泊先を把握しておく。また、ホテルの適切な場所に手指消毒ポイントを適切な備品と共に設置する。
 - ②到着前と出発時に全室が徹底的に清掃されるように手配する。
 - ③可能な限りすべてのチームメンバーに対して個別の部屋を手配し、一緒に移動してきた参加者全員が同じフロアに宿泊するようにする。

- ④可能な限り食事やチームミーティングの際は、専用の個室で行うよう手配する。食事の用意やデリバリーを手配する際は、感染を予防し対策を講じる。例えば、食事の時間をずらす、他の客と共有のビュッフェスタイルの配膳は避けるなど。

7 メディアの対応について

試合を取材するメディアに対して、次の内容を遵守するよう伝える。

- (1) 取材者数を最小限の人数で要請し、会場入り口で新型コロナウイルス感染拡大防止のための確認シート（別紙5）への記名を行う。
- (2) 事前の健康観察において発熱や体調不良（発熱・咳・咽頭痛など）の場合は、会場への入場を見合わせる。
- (3) マスクを常時着用する。
- (4) 取材する上で主催者が示す注意事項を遵守する。
- (5) 取材中は選手との距離はできるだけ2 m以上取り、取材者同士も最低1 m間隔を保つ。
- (6) できるだけ短い時間で取材を終える。

8 関係者から観戦者又は濃厚接触者が発生した場合

- (1) 大会前に関係者（部員・指導者・大会役員）から感染者または濃厚接触者が発生した場合は、主催者は大会の継続もしくは中止を検討する。